

桐生が岡動物園・遊園地の園内施設拡充並びに 周遊観光施策の推進について（継続）

桐生が岡動物園は昭和 28 年の開園以来、子供たちはもとより大人にも愛され親しまれ、動物に接することによる命の大切さが自然に身に付くなど、情操教育の場にもなっておりま

また、隣接する桐生が岡遊園地は、数々の大型遊器具・小型乗物を有し、その利用料金は最高でも 200 円と、大変リーズナブルな料金体系となっており、いずれの施設も桐生市内はもとより、広く関東エリアからも多くの方が来園される、桐生市を代表する観光スポットの一つとなっています。

市外からの更なる誘客を図るために、下記事項について要望いたします。

1. 開園以来数十年の年月が経過し、園内の遊器具や獣舎等の施設が老朽化していることから、新たな遊器具の設置・獣舎の改築・新たな動物の購入等、園内施設の拡充を図るとともに、維持管理費プールの手段としての入場料有料化の検討。
2. 市外からの来園者が、桐生新町重要伝統的建造物群等の市内観光スポットを周遊したくなるような魅力ある観光施策の推進。

【桐生市からの回答】

1 について

御指摘いただいたとおり、動物園の獣舎、遊園地の遊器具につきましては、施設の老朽化により全体として更新など検討すべき時期に入っているものと認識しております。動物園では、平成28年度に県の千客万来支援事業を活用して、幅広い年齢のお客様に対応できるビジタートイレを新設し、その前年度には「ライオン舎」を建設して、新ライオンの導入とともに人気動物カピパラの新規導入も行っております。また、遊園地の遊器具のうち特に大型遊具につきましては設置後20年以上経過したものが多く、安定した誘客を図る上でも早期に更新することが課題となっております。このことから、動物園については引き続き、遊園地についても費用対効果を勘案しながら、様々な機会を捉えて財源の確保に努め、園内施設の拡充や更新を図ってまいりたいと考えております。

なお、入園の有料化につきましては、従前から新たな収益に結びつく方策として研究を重ねておりますが、公立他園の多くが実施している「低廉な料金設定や減免措置」などを考慮した場合に、市が意図する様な収益に結びつくのかどうかなど、実施する上では様々な課題があることから、今後も引き続き研究してまいりたいと考えております。

2 について

動物園や遊園地を目的に来園された方をまちなかに誘導して、市内観光スポットへの周遊を図り、市街地活性化に結びつけるべく、平成27年度には「動物園観光促進ウエエカム事業」により新ライオン舎を整備するとともに、新たな動物の導入や様々な独自イベントを開催いたしました。これは動物園や遊園地の来園者を増やし、併せてまちなか

観光案内マップの作成や低速電動コミュニティバス「MAYU」を活用して、まちなかへの誘導を図り、新たな観光客を創出しようという趣旨で行いました。

この事業を発端として、動物園や遊園地に人を集めてまちなかに誘導していくという仕組み作りを今後も様々な手法を取り入れながら継続してまいりたいと考えております。

【回答担当】都市整備部公園緑地課公園管理係

2について

桐生が岡動物園・遊園地は、県外からも多くの来園客のある、本市を代表する観光スポットであり、同園に来られた市外・県外の観光客をまちなかにも誘導し、本市の魅力を満喫していただく観光施策は極めて重要であると考えております。

市では低速電動コミュニティバス「MAYU」を活用し、遊園地・動物園から重伝建地区への導線を作ることで、来園者のまちなか周遊を促進しているほか、GWには、新採用職員と産業経済部の職員による臨時観光案内所を設置し、まちなかのイベント情報のほか、観光施設や飲食店などのおすすめ情報のPRを行うなど、来園者がまちなかを周遊したくなる仕掛けを積極的に行っております。

今後も、イベントで実施しているAR技術を活用した観光案内や観光イメージアップ映像を活用するなど、来園者が市内観光をしやすい環境を整えると同時に、観光客の満足度が高まるように、既存の観光資源のブラッシュアップと魅力ある観光施策の立案に取り組んでまいりたいと考えております。

【回答担当】産業経済部観光交流課観光・物産係